

## 【共通科目】

| 区分   | 授業科目        | 授業概要  |
|------|-------------|---|
| 共通科目 | 看護研究Ⅰ       | 研究の基本的概念、および研究の過程について学習し、各自が探究しようとしている研究課題（その時点における）に基づき研究計画書を作成するにあたっての留意点を学び、研究者としての基礎的能力を育成する。本科目では、看護研究のプロセスと多様な看護学で活用する研究法、文献クリティーク、研究における倫理、量的・質的研究法の基礎を学ぶ。   |
|      | 看護研究Ⅱ       | 看護現象を探究する研究方法について量的な観点から学習する。記述統計と推測統計において、基本的な統計量の読み方を学び、多変量解析の概略について理解する。また、量的データを用いた看護研究論文のクリティークを通して、研究目的に対応した尺度の選択、および統計解析手法の利用方法を学ぶ。  |
|      | 看護理論        | 看護の専門職者として看護現象の理解を深めるために、看護実践の基盤となるさまざまな看護理論の理解を通して理論と実践のつながりを探求する。   |
|      | 赤十字と災害看護学   | 赤十字誕生の経緯と赤十字運動の歴史を学び、災害や紛争等による健康危機に対する赤十字の足跡を理解する。さらに、昨今の国内外で発生する自然災害あるいは紛争等の危機的な状況が、社会/集団/個人の健康にどのような影響をもたらすのかを深く検討し、看護専門職としてどのように介入するかを熟考するとともに、赤十字の基本原則や人道支援の国際規範との関連性を探究する。   |
|      | 教育哲学        | 教育は人間に関わるすべてのものとの連関のなかにある営為である。この講義では、以下に示すテーマを扱いながら、教育をその存立根拠から考察していく。<br>教育学は看護学と人間学的な基底を共にしており、この講義における教育の哲学的考察は、人間存在についての洞察を通じて、看護学研究にもつながるものである。また、ここでの教育に関する考察は、看護教育の基礎理論として、将来、看護教育に関わるうえで求められる教育的思考の作法の獲得にもつながるものである。               |
|      | 看護教育学       | 社会の変化に対応できる看護基礎教育及び看護継続教育における教育の機能と役割を理解するとともに、生涯教育としての人材育成のあり方を探究する。さらに、看護教育プログラムの作成法、教育システム教授学習、教育方法、評価についての基本的理論を理解する。   |
|      | 看護管理学       | 組織運営に関する諸理論、及び組織における人間の行動について理論を活用しながら、実践の場におけるマネジメントとリーダーシップのあり方を検討する。<br>さらに、質の高いケアを提供するために必要な保健医療福祉従事者間の調整や協働、高度実践看護師としての役割を果たすための管理者間連携・調整、組織における役割に関する知識を修得する。   |
|      | 病態生理学       | 高度看護実践の基盤となる人体の構造、機能について理解する。また、対象の全身にわたる病態生理学的変化について、エビデンスに基づき理解する。さらに、看護を实践するうえで知っておかなければならない代表的な疾患について、原因、病態生理、臨床症状、治療法、予後などについて学修するとともに、患者の状況を理解するためには、どのような情報が必要か、また、得られた情報をどのように解釈するかを学ぶ。それらを基に、専門看護師として臨床看護判断を行うために必要な知識と技術について理解する。 |
|      | フィジカルアセスメント | 複雑な健康問題をもった対象者の健康状態と生活への影響について、系統的に観察するための問診技術とフィジカルイグザミネーション技術を習得する。また、観察した情報を看護介入に活用するための臨床看護判断について学ぶ。さらに、看護実践におけるフィジカルアセスメントの活用に関する課題と今後の展望を考察する。  |

## 【領域別・分野別専門科目「教育・研究者」コース】

| 区分         | 授業科目       | 授業概要  |
|------------|------------|---|
| 基盤看護学領域    | 基盤看護学特論    | 看護の本質とこれからのチーム医療時代に向けての看護職の役割拡大を鑑みて、看護専門職の教育・管理・倫理的側面に焦点化し、看護専門職の発展に寄与できる能力を探究する。   |
| 成育期看護学領域   | 成育期看護学特論   | 成育期にある人と家族の特性を理解するための理論を学ぶ。成育期看護に必要な基礎的理論を用いて、ケアについて探求する。講義、文献精読、学生によるプレゼンテーション、討議により学習する。  |
| 成熟期看護学領域   | 成熟期看護学特論   | 成熟期看護学にある人と家族の特性を理解するための理論を理解し、エビデンスに基づくケアのための基礎的理論について探求する。講義、文献精読、学生によるプレゼンテーション、討議により学習する。   |
| 精神・地域看護学領域 | 精神・地域看護学特論 | 地域包括ケア時代における精神医療保健福祉、在宅看護、公衆衛生看護の視点から課題について把握し、個人・家族・集団への看護実践のあり方を探求する。<br>精神病患者・障害者への支援・在宅ケアの視点人権とその処遇及び精神医療保健福祉に関する法制度について、歴史的・社会的・政治的観点から探求し、精神医療保健福祉の地域包括ケアと在宅看護、公衆衛生看護の現状と課題からエビデンスに基づくケアのための基礎的理論について探求する。講義、文献検討、学生によるプレゼンテーション、討議により学習する。 |
| 災害領域看護学    | 災害看護学特論Ⅰ   | 災害に関する基本的な知識（災害の定義、種類、災害サイクル法的側面等）を学び、災害が人々の生命や生活にどのような影響を与えるのかについて、過去の災害事例に基づいて深く検討する。災害サイクルに沿った人々の反応について、文献を用いて討議し探究する。   |

## 【領域別・分野別専門科目「専門看護師」コース】

| 区分      | 授業科目     | 授業概要  |
|---------|----------|---|
| 小児看護学分野 | 小児看護学Ⅰ   | 小児看護の対象である子どもと家族を理解するために必要な諸理論を学ぶ。子どもの成長・発達および援助理論について、心理・社会的な側面から理解を深めることにより、子どもと家族への援助を考える。   |
|         | 小児看護学Ⅱ   | 子どもの成長・発達や生活環境・生活状況を理解し、子どもと家族を包括的に査定するための方法を学ぶ。観察やインタビューの方法を学び、それを用いて情報収集や分析を行い、対象者の理解を深める技術を学ぶ。   |
|         | 小児看護学Ⅲ   | 子どもの身体的な発達を査定するために、子どものフィジカルアセスメントの技法を学ぶ。   |
|         | 小児看護学Ⅶ   | 様々な健康レベルにある子どもと家族への援助を実践するために、小児看護専門看護師の役割（実践、コンサルテーション、コーディネーション、倫理調整、教育、研究）の視点から援助方法を探求する。  |
| 精神看護学分野 | 精神保健看護学Ⅰ | 精神看護専門看護師が権利擁護者、倫理調整者、組織改革者としての役割を担うため、社会的弱者としての患者、医療福祉サービスの消費者として、憲法及び国際的に認められた精神障害者の権利を基に、精神保健医療・福祉サービスの諸制度と運用、地域医療に転換した諸外国の例を学び、精神保健福祉サービスが利用者および家族の権利擁護を図りながら提供されるための施策のあり方を論考する。 |
|         | 精神保健看護学Ⅱ | 精神看護専門看護師の卓越した実践能力の基盤として最新の医療に関する知識、ケア提供の理論的根拠、エビデンスに基づいたケア提供を学修する。またケア対象の精神現症検査、心理・社会的要因、家族評価、身体状態の評価、セルフケアアセスメントについて学修し、対象を全人的に捉え理解する能力と包括的なアセスメント能力を育成する。                          |
|         | 精神保健看護学Ⅴ | 精神看護専門看護師として必要な精神保健看護の枠組みでクライアントが自らの精神健康上の課題に気づき、心理的に困難な状況を主体的に乗り越えていくためのケアの基盤となる看護理論や関連分野のモデル、概念に対する理解を深め、看護実践の方向性を検討していく。   |
|         | 精神保健看護学Ⅵ | 様々な生活上の体験から招来するストレスに対する対処法として、マインドフルネス、呼吸法、自律神経訓練法、漸進的筋弛緩法、アロマセラピー、リンパマッサージ、TFT、アートセラピーと音楽療法を看護の援助技法として学ぶ。また、問題解決や人間関係の学習の方法として元気回復行動プランを学ぶ。  |
| 災害看護学分野 | 災害看護学Ⅰ   | 災害に関する基本的な知識（災害の定義、種類、災害サイクル等）を学び、災害が人々の生命や生活にどのような影響を与えるのかについて、過去の災害事例に基づいて深く検討する。災害サイクルに沿った人々の反応について、文献や実際の事例を用いて討議し探究する。   |
|         | 災害看護学Ⅱ   | 災害サイクル各期の看護活動の場の特性を理解する。国内外の災害救援活動における活動原則（倫理的側面を含む）や活動方法を理解し、他職種との連携について考察を深め、支援のあり方について理論的に探求する。  |
|         | 災害看護学Ⅲ   | 国内外で災害救援活動を展開する上で必要となる法制度について理解を深める。さまざまな災害に関連した法律や制度等を歴史的な観点から概観し、災害法制の仕組みを理解したうえで、災害各期における災害対応の現状と具体的な課題（健康や生活課題等）について、事例を活用しながら探求する。   |